

南 丹 市

子育て発達支援センター



発達支援センター設立の経緯

- 早期発見・早期支援の必要性・重要性が重視される中、保健と福祉が連携し一体的に支援が出来ないかを検討



- 専門職による相談実施早期に支援の方向性発見
- それまでは別場所実施の療育事業と密に連携することで早期支援継続・充実



- ★平成21年4月南丹市子育て発達支援センター開設
- 就学後支援が途切れがちな部分をカバーするため、0～18歳未満を対象

主な事業

- * 発達支援相談(発達相談・OT相談・ST相談等)
- * 保育所・幼稚園・こども園巡回
- * 遊びの教室(親子教室)
- *ペアレントトレーニング
- * 学校(学童)訪問
- * 研修会講師
- * 乳幼児健診
- * 療育支援(児童発達支援サービス)...などなど



委託事業

職員紹介

【スタッフ】

常勤：作業療法士(OT)2名・保健師1名

心理士2名(会計年度任用職員)

非常勤：医師2名(小児科医)・言語聴覚士(ST)1名

保育士・看護師(短時間会計年度任用職員)

【療育支援事業】

常勤療育指導員6名・非常勤指導員2名
(児発管・心理士・保育士・社会福祉士など)



委託
事業

発達相談

主に「新版K式発達検査」で検査を取り、子どもの発達の段階について評価をする
年長、就学後のケースには、
「WISC-V」「DN-CAS」などの、知能検査を行う

発達検査の結果をもとに、子どもの発達や、普段の関わりなどについて、保護者に話をする
検査日と結果返しの日を分けることもある

心理士の1ヵ月

月	火	水	木	金
園巡回	研修会講師	発達相談	学校訪問	発達相談 乳児後期健診
教育支援 委員会	発達相談	ペアトレ	遊びの教室 発達相談	園巡回
学校訪問	園巡回	発達相談 2.5健診	ペアトレ	発達相談 1.8健診
学校へ 結果返し	発達相談	発達相談 3.5健診	遊びの教室 発達相談	発達相談

OT相談（作業療法士）

子どもが遊具や人といった環境とどの様に関わり、どの様に行動しているのかを関わりながら観察・評価をする

保護者との会話で困りごとや成長してほしいことなどを聞き、
子どもの特徴（主訴の背景）や家庭でも出来る遊び、関わり方などを伝える

作業療法士の1ヵ月

月	火	水	木	金
教育支援委員会	研修会講師 OT相談	OT相談	学校訪問	OT相談 乳児後期健診
療育支援	運動プログラム	OT相談	遊びの教室 OT相談	園巡回
学校訪問	園巡回	OT相談	療育支援	OT相談 1.8健診
児童クラブ 連携	園巡回	OT相談	遊びの教室 OT相談	保護者会 OT相談

園巡回①

事前に担任に相談したいケースについてケースシートを作成してもらい、
スタッフ（作業療法士、心理士）が確認

スタッフが1つの保育所・幼稚園・こども園に訪問し、給食まで子どもの普段の様子を観察

保育所名：〇〇保育所

クラス：4歳児（さくら組）23名 担任：□□、△△（Aくんの加配）

【クラス全体の様子】

3歳児のときから同じメンバーで過ごしている。全体的には元気な子が多いクラスで、友だち同士で同じ遊びを共有しながら遊ぶ姿も増えてきた。中には、一斉指示が入りにくく、個別で声かけが必要な子もいる。テンションが上がると落ち着くまでに時間がかかることがある。

【子どもの情報】

名前：A 性別：男 生年月日：H22.7.30

【困っていること】

- ・ 教室から一人で出て行ってしまふことが困る。設定の活動（特に制作活動）のときに、出て行くことが多く、加配の保育士が呼びに行くと一緒に戻って来る。
- ・ 目が合いにくく、コミュニケーションが取りにくい。一人でぼーっとしていることが多く、友だちと遊ぶことも少ない。保育士に自ら関わる姿もほとんど見られない。

【今、期待していること（目標）】

- ・ できることからいいのでクラスの活動に参加してほしい。
- ・ 友だちと関わる楽しさを知ってほしい。

【将来の目指す姿】

- ・ 小学校に行ったとき、本来持っている力を発揮して、クラスの仲間と一緒に学校生活を送ってほしい。

園巡回②

巡回後ミーティング



担任・加配
保育士

園長
副園長

対象児の園での普段の様子や
保護者の様子、困りごとの相談

健診や相談時の情報提供
具体的な支援の方法をアドバイス

スタッフ

相談には繋がっていない子どものことも
よく知れて地域で暮らす子ども達への
幅広い支援が出来る

遊びの教室



- ・対象：低年齢の発達支援が必要な子・保護者
- ・5～10組の小集団での遊びの場
- ・個別相談から紹介
- ・スタッフ：保育士2名・心理士1名
作業療法士1名

個別相談での評価も踏まえながら、必要な時に医療・療育を紹介

教室の様子

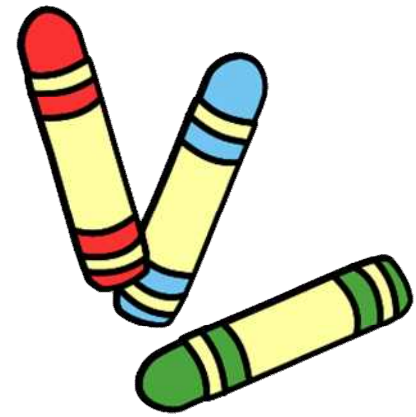


- | | |
|--------|-------------------|
| 9:30 | 集合(シール貼り、自由遊び) |
| 10:00~ | 親子遊び |
| 10:20~ | 自由遊び(和室、公園、プール、山) |
| ~11:00 | 絵本、終わりの歌 |



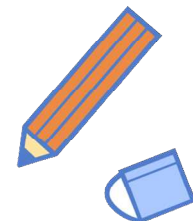
大切にしていること

1. 早期発見、早期フォロー支援体制の継続
2. 児童発達支援事業の体制整備
3. 保育所・幼稚園巡回相談事業と学童期への連携の継続
4. 就学後の支援体制の継続
5. 研修の実施



学校支援

- 保護者、または学校の先生から依頼
- センタースタッフが参観
- 担任、コーディネーターとミーティング
- 必要時、各相談へ
- 担任と協働で授業のプログラム立案
- 担任、コーディネーターと連携
- 保護者面談等



感覚とは

* 身体に入ってきた刺激を、脳で情報として受け止め処理すること

(例) 食べ物を前にして、「おいしそう!」「いいにおい!」と感じる

刺激を受ける(入力) 見る・聞くなどの行為によって、外部から刺激を受ける
身体から脳に刺激が送られる



脳が刺激を感覚情報として処理する
感覚が上手く働けば「食べ物だ!」などと感じる

情報処理



情報処理の結果、脳から身体に命令が出る
「手を伸ばす」「口をあける」などの行動になる
行動(出力)

情報処理が苦手な人
体外から入る刺激を上手く整理できない人は、
感覚刺激に対して独特の反応をみせる。
それが身体の動かし方・感じ方の悩みとなる



感覚の特徴

- 感じ取れる強さには個人差がある⇒過敏・鈍感

例) 背中を叩かれて気付く人・気付かない人

- 感じ取り方は変動する⇒体調・覚醒

例) 体調の良し悪しによって、気にならない音や匂いが気になる

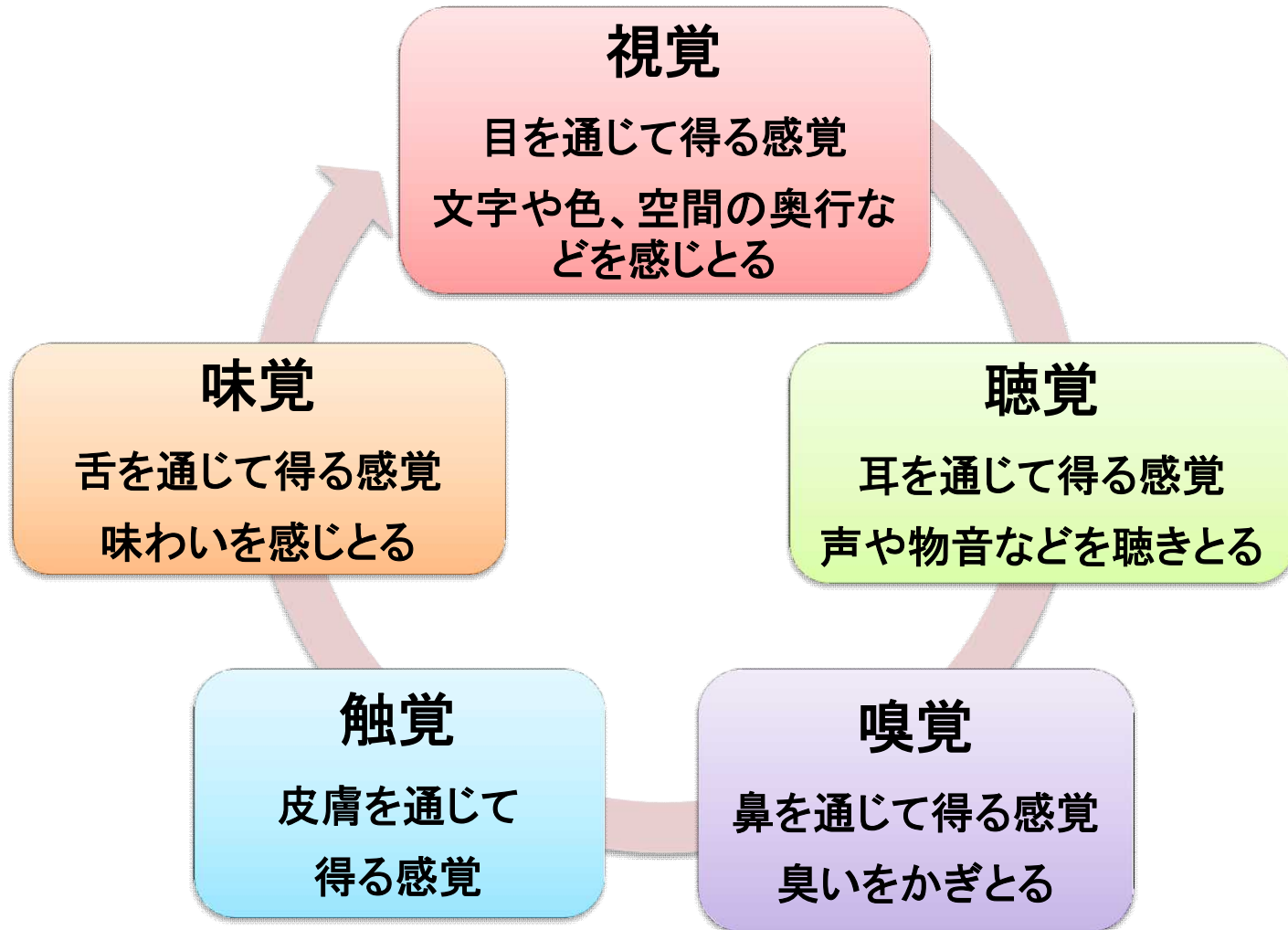
- 個人の主観に左右される⇒刺激の強弱・感情

例) 好きな人に手を握られる♥

嫌いな人に手を握られる💀

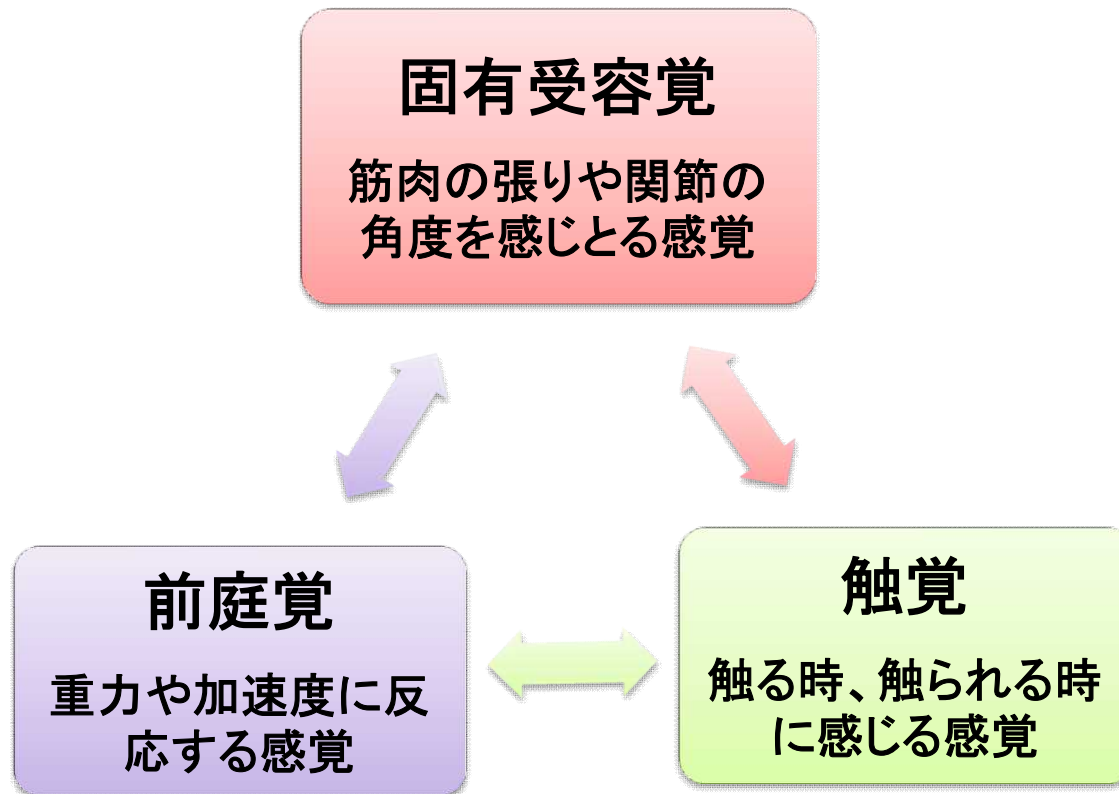


実感しやすい感覚



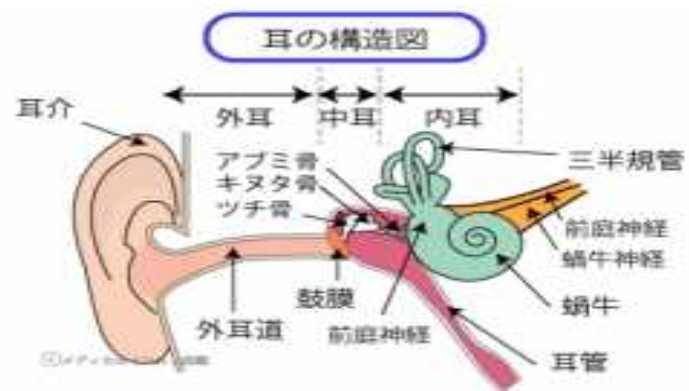
実感しにくい感覚

自覚しにくい3つの感覚は、日常生活ではほとんど無意識に用いられています。これら「3つの感覚」のトラブルが混乱を生みます。



前庭覚の働き

- 重力や回転、加速度を感じ取る
- 三半規管と耳石器からなる
 - ・三半規管：回転する時の方向と加速度を感じ取る
 - ・耳石器：前後・上下の直線運動の方向と加速度を感じとる
頭の傾きを感じ取る



固有受容覚の働き

- 運動覚: 手足など各部位の動きを感じとる
例) ボールを投げる
- 位置覚: 手足など各部位の位置関係を感じとる
例) ポーズを取る
- 重量覚: 身体に加わっている重さを感じとる
例) 物を持った時など
- 抵抗覚: 身体に加わる抵抗を感じとる
例) 手で押されている時など



固有受容覚

- 力加減の調節
- 運動をコントロールする働き
- 重力に抗して姿勢を保つ働き
- 身体の地図・機能を把握する働き



固有受容覚にトラブルがあると動作が雑な人に見える



- 指先の緻密な動きや、腕や足の細かなコントロールが苦手
- 力加減が苦手
- 全身を大きく動かす時も、ぎこちなさが出る(体操、球技、踊りなど)
- 声のボリューム調節が苦手



授業での様子

- 足をカタカタ揺らす
- 鉛筆、下敷き、物差しを噛む
- 机を太腿で持ち上げようとする
- 常にゴソゴソ動いている
- 爪噛み
- 立ち歩き



学校でできること

- 動きを取り入れた授業
- 役割を与える(プリント配り、黒板消し係など)
- 前に出て発表
- 机を移動して班ごとで話し合い
- 全員で音読をするなど
- 休み時間は外遊びを促す



地域の中で



発達支援センター
心理士・OT・ST・Dr.

こども家庭課
保健師・相談員

療育機関
療育指導員

保育所幼稚園
園長・副園長
担任の保育士

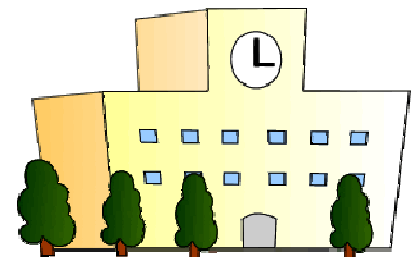
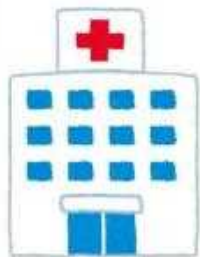
放課後等デイサービス
指導員スタッフ

放課後児童クラブ
児童指導員

家庭支援総合
センター
相談員

学校
コーディネーター
通級指導教室
担任の先生

医療機関
担当医師
OT・PT・ST



参考文献

- 発達障害と作業療法[基礎編]、三輪書店、2001年
- 感覚統合とその実践、協同医書出版社、2006年
- 感覚統合Q&A、協同医書出版社、1998年
- 発達障害のある子へのサポ°ー事例集、ナツメ社、2010年
- 発達障害の子の感覚遊び・運動遊び、講談社、2010年
- 乳児期の感覚統合遊び、クリエイツかもがわ、2016年
- 新・感覚統合の理論と実践、学研、1997年
- 作業療法技術ガイド、文光堂、第2版、2003年

